

Entomophagy and Architecture for crickets

昆虫食のためのパーソナル昆虫飼育プロダクトのデザイン

「2050年、私たちの食卓には当たり前前に**昆虫料理**が並ぶかもしれない」

FULL COURSE with insects



bambooworms salada
バンブーフームのサラダ

scarabaeid terrine
コガネムシのテリーヌ

crickets soup
コオロギスープ

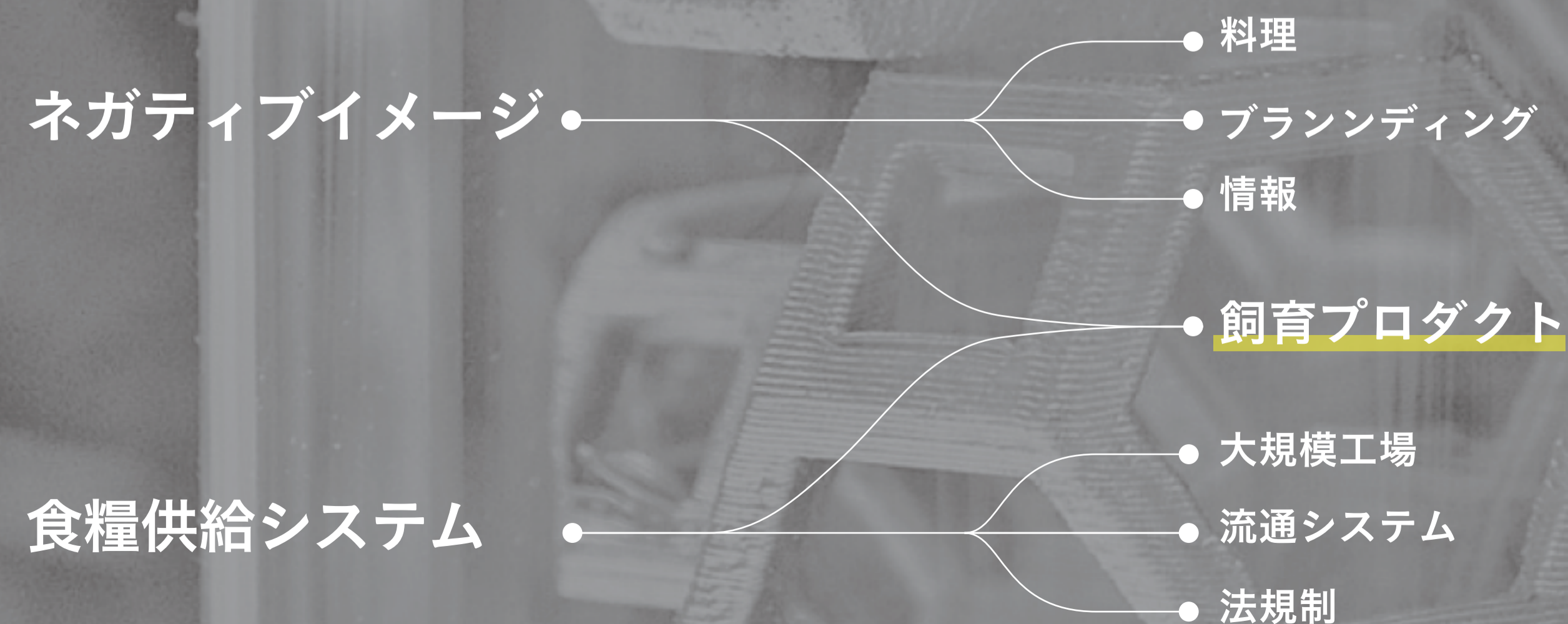
bambooworms croquette
バンブーフームのコロッケ

crickets hamburg
コオロギハンバーグ

silkworms pancake
エリサンのパンケーキ

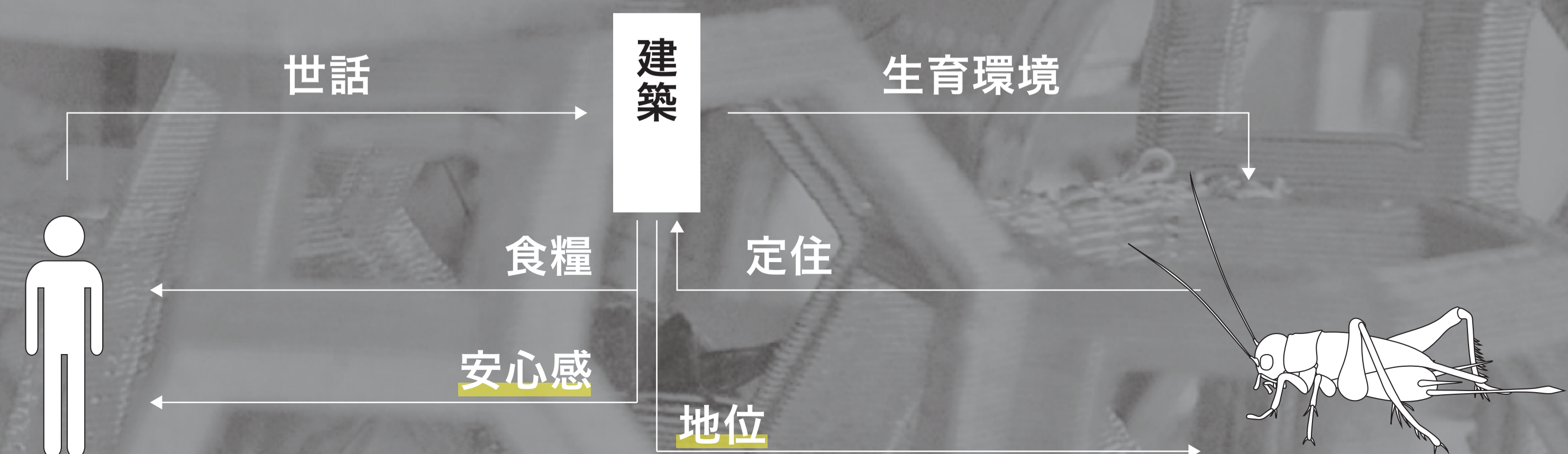
2つの問題 - 無数のアプローチ

個人で飼育できるものを作ることは食糧供給を実現するだけでなく、**ネガティブイメージを払拭する可能性も持っている。**



人のためのプロダクト / 虫のための建築

自ら飼育することで昆虫が得体的**しれないもの**でなくなる。

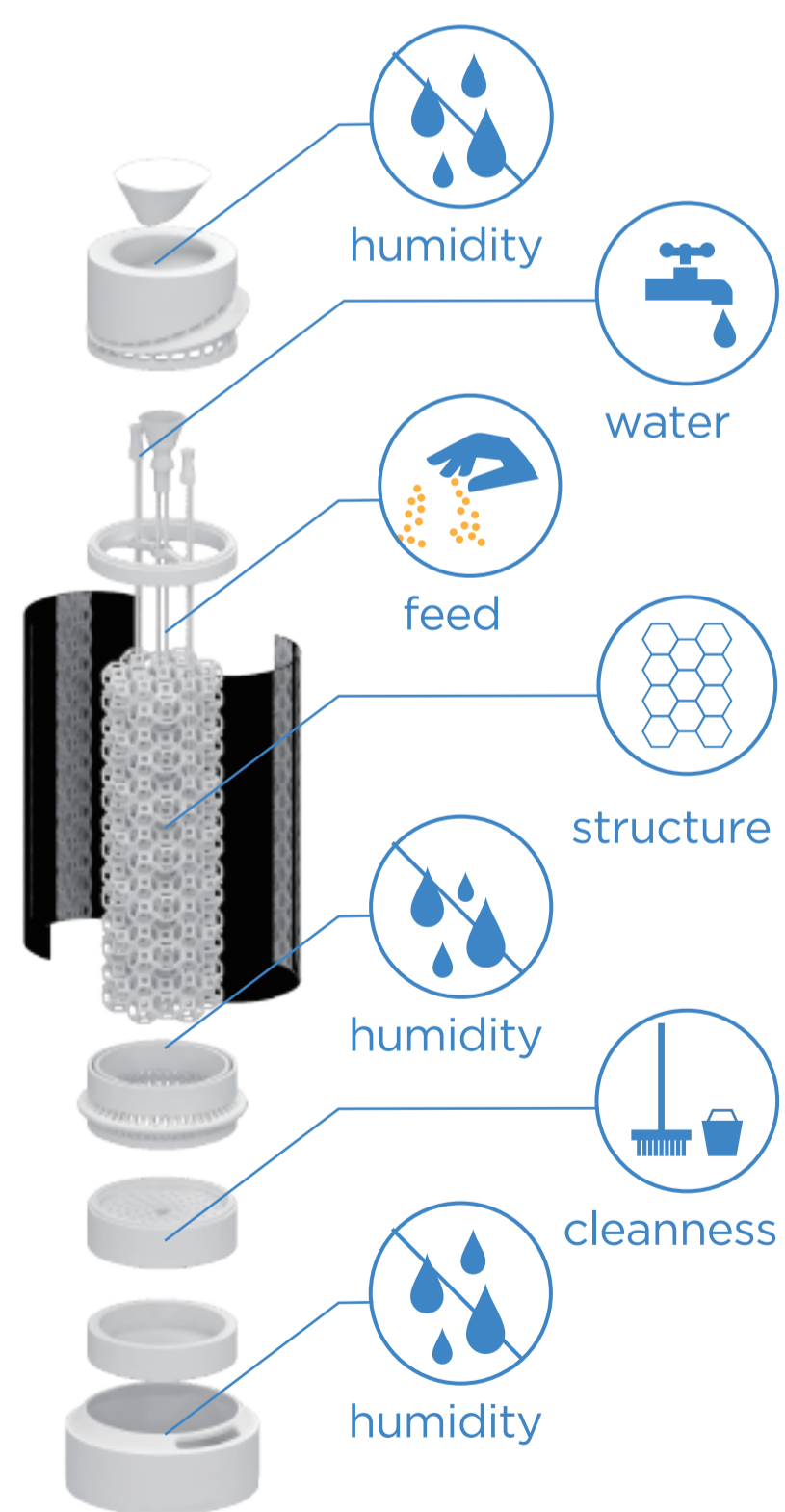


コオロギとの対話 - 実験と観察

- コオロギを育てるには、人の目線だけではうまくいかない。
いかにコオロギが快適に暮らせるかを追及する必要がある。



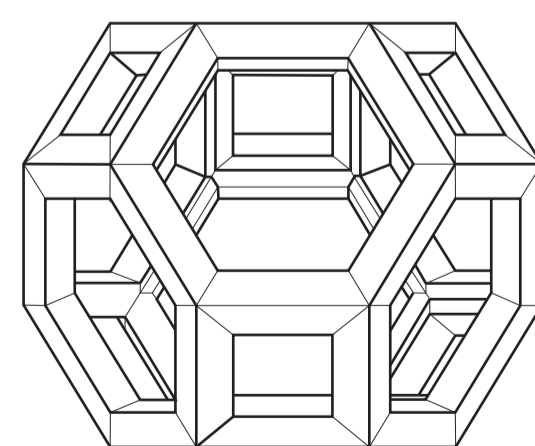
対話から得た機能



・切頂八面体

居住スペースとして切頂八面体を1モジュールとした構造を利用した。構造の特性上、空間を無駄なく充填できることや多孔質であることで移動が楽であること、エサや糞が下部に溜まることなどの利点がある。

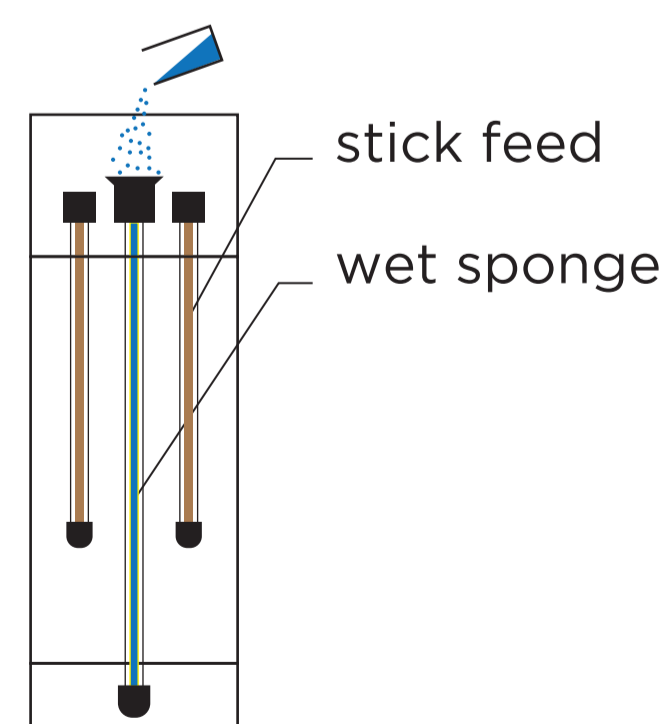
さらにモジュール性しておくことで形状やスケールを自由に変化させることが可能になる。



・垂直インフラ

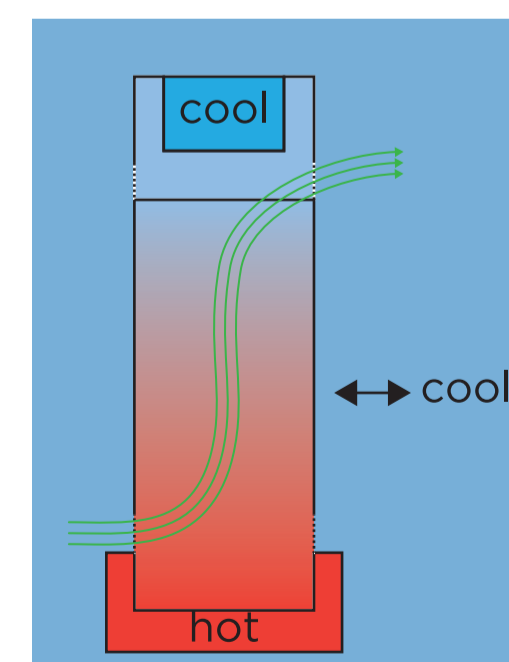
垂直に餌や水を与えることで、カスや水滴、糞が一方向に落ちる。それを取り替え可能な下部で受け止めることで環境が汚染されにくい。同時に餌や水を与える作業が簡略化されるという利点もある。

餌は長い棒状に成形したものをを用いて、水はスポンジを介して毛細管効果を利用して与える。



・煙突効果換気

煙突効果とは煙突の内部が外気より温かい際に外から内に風が流れ込み、その量は煙突の高さに比例するというものである。この建築は円筒で高さもあるため煙突効果が起こることが確認された。これをより効率よくするために下部にお湯を入れる場所を作り、内部を温める。同時に空気は温度差があるときに上部に向かうため、上部には水で冷却できる部分を作る。



プロトタイピングはモノの精度をあげるためだけではなく、デザインの対象を深く理解するための方法としての可能性がある。



とはいえ、コミュニケーションが取れないものを理解することは本当に可能なのか。そして、できるならばどのような方法なのだろうか。

